



◆ 第71回卒業証書授与式挙行 ◆

3月1日(月) 第71回卒業証書授与式を挙行了しました。今年度の卒業生は四修制2名、三修制2名の計4名。開式の後、胸にコサージュをつけた卒業生は担任に呼名され、笹井晋吾校長より一人ひとり卒業証書を授与されました。

校長先生は式辞のなかで少子化を含む社会問題にふれて、ドイツの詩人C. モルゲンシュテルンの次の言葉を紹介されました。

『住まいの在るところが故郷^{ふるさと}なのではない。

理解してもらえるところこそ故郷^{ふるさと}なのだ』

そして「人はひとりでは生きていけません。社会の中で多くの人と関わりながら生きていきます。それ故、ここ海南高校定時制と日々の生活の中で培った心^{ふるさと}の故郷に常に思いを馳せながら、いつかは地元に貢献できるよう、未来に向けて大いに羽ばたいてください」と結び、卒業生にエールを送られました。



◆ 卒業生のことば(定時制新聞より抜粋) ◆

○ 中学生のころ不登校だった僕は、高校は卒業しておきたいと思い定時制高校に入学しました。その半年後に始めたアルバイトと学校の掛け持ちは大変で、学校をやめようかとも思いましたが、高校卒業という入学当初の目標を思い出し、もう一度頑張ると決めました。在学中いろんな出会いや別れがあり、僕は人として成長できたと思います。

僕は四月から社会人になります。これまで以上に辛いこともあると思いますが、今までの経験を生かして頑張ろうと思います。先生方、本当にありがとうございました。

○ 学校はもともと嫌いでしたが、クラスメイトや先生方に恵まれ楽しい四年間になったと思います。入学して少したってから生徒会長に選ばれ、人の前に立ちみんなを引っ張る存在になれたことはすごく良い経験で、とても楽しかったです。全日制とは違った行事ができたのも新鮮でよかったです。

大きな企業に就職できたことがとても嬉しく、不安もありますがわくわくしています。さらに上を目指しますので先生方は見守っててください。

○ 私の高校生活三年間は、今の担任の先生に支えられたものだったと感じています。先生は、いつも私たち生徒を一番に考え、楽しいことも嫌なことも一緒になってしてくれました。学校のことでなく、個人的な悩みにも親身に相談にのってくれました。時には友達のように話せる存在で、今まで出会った先生の中で、一番寄り添ってくれたと私は思います。

私が高校三年間を乗り越えられたのも、先生のおかげです。ありがとうございました。

○ 私は海南高校定時制に入学して、学業と勤労の両立の難しさを知り、時間を有効に活用することの大切さを学びました。想像していた学校生活とは違い、人との関わりが多く楽しく過ごせました。また、人数が少ないことから人との繋がりが濃くなり、人には他の人にはわからない部分や理解しがたい行動もあるけれど、必ず長所があるんだなと感じることもありました。そして、短所を改め、長所を伸ばすことの大切さをこの三年間で学び、多少なりとも成長できたと思います。



4月の行事予定

・5日(月) 18:00 離任式

・8日(木) 17:30 始業式 18:00 入学式

・9日(金) 18:00 オリエンテーション

・12日(月) 18:00 身体測定・個人面談